

＜ハマナスの持続可能な利用による親子参加型環境保全啓発事業＞

石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会

北海道の花「ハマナス」の自生地、石狩浜の豊かな自然を次世代へ引き継いでいくため、ハマナスをシンボルに、石狩浜の自然に親しみ守り育てる活動へとつなげ、自然を活かした持続可能な地域づくりを進める活動として、親子対象としたイベントを2回、6月と9月に開催しました。

ハマナスの開花が最盛期の6月11日、石狩浜海浜植物保護センターを会場に開催した「はまなすフェスティバル」は、市内の親子中心に、市外からも多くの方におこしいただき、来場者数は400名となりました。石狩浜海浜植物保護センター隣接のハマナス再生園では、かつて石狩浜のハマナスが香水の原料として地元の方たちがその香りに包まれながら花びらを摘んでいた光景と同じように、ハマナスの香りが漂う中、多くの方に花びら摘みを楽しんでいただきました。自然の恵みをいただくお礼として、ハマナスの周りの外来植物「ヒメスイバ」の抜き取りも行っていました。予想以上のヒメスイバが除去され、今後のハマナスの生育に貢献することが期待されました。

摘んだ花びらから香りを抽出する「蒸留」の実演も同時に行い、見学いただいた多くの方に、自然の香りの活用方法の一つ「蒸留」について、理解を深めていただきました。

よく観察することでハマナスに興味を持ってもらう「ハマナスなぞときクイズ」も多くの方に参加いただきました。花びらの枚数は？葉っぱの形は？など、観察すればこたえがわかるクイズを親子で楽しんでいました。

市内の菓子店などによる、ハマナスを使ったパンやお菓子、お茶の販売もありました。会場での飲食はできませんでしたが、ハマナスの食材としての魅力も知っていただくことができました。

ハマナスの実が熟した9月10日には、市街地近くでハマナス畑を有する農場、はるきちオーガニックファームで、気軽に立ち寄ってハマナスに親しんでもらうイベントとして、「秋のハマナスDay」を開催、市内の親子中心に100名の来場がありました。

ハマナス畑では、ワークショップ「ハマナスの実とタネのふしぎ」を行い、科学的な視点から実を観察したり、実を使ったジャムを味わうなど、参加者は五感で楽しんでいました。種まきブースも設け、石狩浜のハマナス再生園に移植する苗をつくるために、再生園から採取したタネを子どもたちに播いてもらうとともに、ハマナスなぞときクイズの秋編を実施し、子どもたちはハマナスをよく観察して取り組んでいました。ハマナスを使った石けんづくりも、たくさんの親子の参加があり、ハマナスを知る入り口として大変効果的でした。

本イベントの開催によって、花摘み体験が多くの人に喜ばれ、同時に保全への行動へつながることがわかりました。また、ハマナスの多面的な利活用により、多くの方が石狩浜の自然に関心をもつきっかけとなることもわかりました。

今後も、ハマナスの花や実の香りや風味、彩りを楽しめる機会を作り、たくさんの方に足を運んでもらうことで、ハマナスの自生地である海岸の自然環境の保全や生物多様性の保全につなげていきたいと思っています。

<はまなすフェスティバル>



ハマナス再生園で花摘みと外来植物の抜き取りに取り組む参加者の様子。



花摘みの方法、外来植物の抜き取りの方法、なぜ外来植物を抜くのかを説明する掲示物（左）と、抜き取った外来植物（右）の様子。



ハマナスの花びらの蒸留の実演（左）とハマナスの花びらの色の変化を科学的に学ぶ実験ワークショップ（右）の様子。

＜秋のハマナス Day＞



ハマナスの実とタネのふしぎワークショップの様子。



ハマナスを使った石けんづくりワークショップ（左）とハマナスのタネ播きの様子（右）。